

序 文

手術の進歩は日進月歩である。

その時代の科学技術の影響を受けて手術手技は常に進化を続けている。肝胆膵外科においても、腹腔鏡下手術の導入とそこから得られた新知見を取り入れ開腹手術も進化を続けているのが良い例である。それ故に、外科医の関心はどうしても最先端に向きがちである。しかし、最先端を追及する姿勢が強すぎると時に不幸な結果に繋がってしまう。外科医は常に安全性こそ最も重視すべきものであることを自らに戒める必要がある。学会のビデオシンポジウムなどでも高難度手術のセッションが人気だが、そのような手術を行える術者が必ず通ってきた道が基本手技を学ぶことである。

手術の基本はまず安定した「切る」、「剥がす」、「縛る」であり、それぞれの分野における「基本術式」と呼ばれる術式である。これらの手術が安全に施行できて初めて専門医レベルがクリアできたとと言えるだろう。そのため、本書ではまずはこれだけはマスターして欲しいと思う基本術式を取り上げた。また、類書との差別化を図るため全く新しい実践的な内容とする編集方針で臨んだ。それは、術式単位ではなく、手術のステップごとに章を設け、それぞれの key point にはビデオ（動画）を付けた。また、重要なポイントには「ポイント」や「Check」、「Don't」という見出しが付いている。執筆者の長年の経験から得られたエッセンスがここに込められている。さらに、図や写真もわかりやすいものを載せて頂くように執筆者にお願いした。これに対して、多忙な日常診療のデューティにもかかわらず、全ての執筆者が編集者の要請に真摯に応じて下さった。改めて快く協力して頂いた多くの執筆者にこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。本書の出来上がりを見ると、正に執筆者の努力の結晶と言える物となっている。

ただ何分にも手術術式は施設による差があるものである。自分の施設のやり方と微妙に違う点もあると思う。ぜひ、御意見をお聞かせ願いたい。そして本書の良いところを吸収して自分なりの手術を会得して欲しい。手術の前後には常に本書を手にとって予習復習に使って頂けるものになって欲しい。正に若手消化器外科医の座右の書となることを祈念している。

最後に、このような大役を与えて頂いた上西紀夫先生に感謝するとともに、出版にご尽力下さった学研メディカル秀潤社の谷口陽一氏に心から感謝の意を表します。

2019年5月

横浜市立大学医学部消化器・腫瘍外科学 教授

遠藤 格